

がんサバイバーの妊孕性喪失又は妊娠不成立に関わる心理社会的ケアを検討するためのシステマティックレビュー

吉田加奈子<sup>1</sup>, 橋本知子<sup>2</sup>, 小泉智恵<sup>3</sup>, 鈴木直<sup>4</sup>

<sup>1</sup>筑波大学大学院 <sup>2</sup>IVF なんばクリニック <sup>3</sup>獨協医科大学埼玉医療センター <sup>4</sup>聖マリアンナ医科大学

### 【目的】

がんサバイバーのがん治療による妊孕性喪失の可能性のつらさは、治療前・治療中のみならず、治療後の人生の長期間にわたって持続する。しかし、がん治療を終了したがんサバイバーの妊孕性に関する心理社会的ケアは十分ではない。本研究は、システマティックレビューを行うことで、生殖可能年齢のがんサバイバーの妊孕性喪失又は妊娠不成立後の心理社会的状況及びケアを検討することを目的とする。

### 【方法】

PubMed、Cochrane Library、PsycINFO、CINHAL、医中誌等のデータベースを用いて、2000年～2021年までの英語又は日本語で書かれた文献を検索する。論説やプロトコル論文等、一次データが含まれない論文は除外する。がんサバイバーの性別及びがん種、心理社会的ケアの種類は限定しない。検索語には「がん」、「妊孕性」、「心理社会的ケア」、「妊孕性喪失」と、それらの類義語を含める。まず予備検索を実施して検索語を選定する。次に、選定した検索語によって上記データベースを用いて文献を抽出する。一次スクリーニングでは、2名が独立して文献タイトルと抄録から文献を選出する。二次スクリーニングでは、2名が独立して文献を読解し、臨床疑問と選択基準及び除外基準と照合し、文献を選出する。2名のスクリーニング結果が一致しない文献については、第三者が判断する。本研究は厚生労働科学研究費補助金(202108015A)により実施する。

### 【結果と考察】

検索語を決定するために、予備検索を実施した。2022年11月30日現在、1688件を抽出し、該当論文であるか確認作業を行ったところ、一次スクリーニングの対象となる文献数は、358件であった。検索語、検索式を精緻化したが、非該当論文が多数含まれていた。詳細分析は当日発表する。